

17 家具



家具職人たちが日本の伝統的技術に挑む

日本の家具は、床に直接座ることを生活の基本とした収納のための家具作りから始まりました。現在我が国では、椅子・テーブル・チェスト類の西洋家具と日本の伝統的な技術を取り入れた和家具に分類され、時代のニーズに合った木製製品を製作しています。

競技概要 競技時間 11時間30分(1日目7時間/2日目4時間30分)

材料は木の温もりのある無垢材を使い、課題は天板、帆立、框扉、抽斗で構成されています。天板と帆立の仕口には指物の要素を入れた「前後留7枚蟻組接ぎ」、帆立と中地板の仕口には「剣留、二枚柄と片胴付き」、帆立と地板の仕口には「三方胴付き」、抽斗には「包蟻5枚組接ぎ」と「三枚組接ぎ」、扉框には加工精度が求められる「小根付き二方胴付き柄組」をそれぞれ要素として入れてみました。また、本体見付面には蛇腹面を施し、見た目以上(実寸法以上)の重量感を持たせています。

Point

本体、框扉、抽斗のうちどの部分から手掛け、どのような手順で製作するかが競技のポイントになります。また、作品の表面を平鉋や外内丸鉋で仕上げる醍醐味があります。機械加工については使用制限が設けられ全選手が交代で使用するので、作業工程の進め方が重要になります。



第30回 競技課題

